

NUAL (ニューアル) は Nagoya University Alumni Association の略称です。



上段左：支援事業報告：ASANU による異文化交流イベント（アフリカ・デー） アフリカ学生による民族衣装ファッション・ショー
上段右：支援事業報告：名古屋大学グローバルスチューデント・アンバサダープログラム グローバルスチューデントアンバサダー研修の様子
下段左：活躍する会員たち 吉田泰信さん：旧制八高と名古屋大学の思い出 栗田校長による八高門標取外し（正門は現在、明治村正門）
下段右：第7回名古屋大学同窓会サミット 杉山総長挨拶

Upper left: NUAL Support Project report: ASANU's Intercultural Exchange Event (Africa Day). Students from Africa participate in a fashion show in native dress
Upper right: NUAL Support Project report: Nagoya University Global Student Ambassador Program. Global Student Ambassador training taking place
Lower left: NUAL People in Action. Yoshida Yasunobu: Memories of Eighth Higher School and Nagoya University. Principal Kurita removes the Eighth Higher School nameplate (the main entrance now acts as the entrance to Meiji Mura)
Lower right: The 7th Summit Meeting of NUAL Associations and Networking Event: President Sugiyama's address

Contents

特集1 第7回名古屋大学同窓会サミット・交流会が
開催されました…………… 2
The 7th Summit Meeting of NUAL Associations and
Networking Event was held
活躍する会員たち…………… 4
NUAL People in Action

特集2 名古屋大学全学同窓会講演会・夕食会報告・8
Report on the latest NUAL Lecture and evening meal
同窓会ニュース…………… 9
NUAL News
事務局からのお知らせ…………… 16
From the NUAL Office

特集では、いずれもコロナ禍後初の全面対面形式で行われた同窓会サミットと、全学同窓会講演会・夕食会の様子をお伝えします。活躍する会員たちのコーナーでは、名古屋大学ホームカミングディ20周年を記念する拡大版として、本学卒業生の吉田さんに旧制八校や創立間もない名古屋大学での思い出についてお話しいただきます。同窓会支援事業の報告も6件ご紹介します。

In our special features, we bring you information about events held fully in-person for the first time since the Covid-19 pandemic: the Summit Meeting of NUAL Associations, and the NUAL Lecture and evening meal. This issue also includes an extended edition of NUAL People in Action to commemorate 20 years of the Nagoya University Homecoming Day. We hear from Mr Yoshida, an alumnus of Nagoya University, who shares his memories of the University in its early days and its antecedent, Eighth Higher School. We also report on 6 NUAL Support Projects.

第7回名古屋大学同窓会サミット・交流会が開催されました

The 7th Summit Meeting of NUAL Associations and Networking Event was held

名古屋大学同窓会サミット議長
名古屋大学全学同窓会副会長
伊藤 義人



1. はじめに

昨年度の第6回名古屋大学同窓会サミットは、原則対面でオンラインにも対応しましたが、今年度の第7回は、直接の交流が大事ということで、対面のみで実施しました。7月20日(土)の午後4時から、豊田講堂シンポジオンホールでサミットを実施し、その後シンポジオンホールのアトリウムで交流会を実施しました。同窓会サミットは、部局同窓会と全学同窓会の執行部および大学本部との貴重な情報交換の場となっています。

大学からは、杉山総長、松尾機構長、佐久間副総長および木村副総長(代表幹事)が、全学同窓会からは、齋藤副会長、西村副会長および私が参加し、部局同窓会から23同窓会の36名が参加しました。

2. 名古屋大学同窓会サミット

最初に、齋藤副会長、杉山総長および松尾機構長から、ご挨拶をいただいた後で、参加者全員の名前と所属のみの簡単な自己紹介を行いました。

いつものように事前アンケート(33同窓会回答)を行っており、事務局によって各同窓会の動向をまとめたものを私から説明し、その後、種々の意見交換を行いました。

1) 最近の同窓会活動について

各同窓会活動は、昨年度と同様に対面での活動が増えていますが、対面とオンラインのデュアルモードでの活動も、まだ多く残っているようです。対応が大変なのと、対面でないとう交流がうまくできないという課題が出ています。

以下のような事項が話し合われました。

a) 国際開発のフィリピン支部とカンボジア支部発足の報告に対して、全学同窓会の海外支部との関係について、今後の連携の必要性が指摘されました。日本人の海外駐在員との連携の必要性についても話が出ました。

b) アフガニスタンフェローの支援について

c) 卒業生等電子名簿からの E-mail アドレスのダウンロードについての要望。単にダウンロードしても、大量の発信を一時にすると、サーバーに制限がかかる可能性があることも話し合われました。外部通信業者を使うなどして、部局同窓会が卒業生に E-mail で連絡をとれるようにすることが課題となりました。

d) 前回の同窓会サミットで話題となった卒業生の附属図書館入館証が発行されたことに関して感謝の発言がありました。

2) 役員任期と選出方法について

同窓会の会長や事務局長(幹事長)のなり手が少なく、運営に支障をきたしているという意見が出ており、事前アンケートで各同窓会の役員任期の実態をまとめました。その結果、次ページの図のような結果になりました。任期を定めて、その間は一生懸命に運営に注力いただくことが大事なようでした。

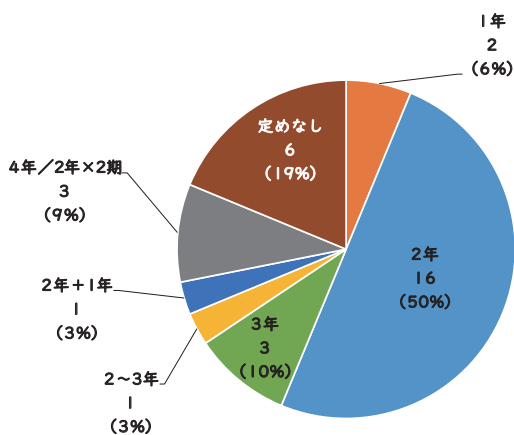
以下のような意見交換がありました。

a) 最初に選考委員会を立ち上げ、同窓会員からの推薦者を選考委員会で審議し、その後役員会で審議、承認しており、この30年くらいまわっています。役員に任期がないと人事の流れが停滞して継続的に同窓会活動ができない場合があるため、鏡ヶ池会(工学部土木教室)では、30年ほど前に内規を作成し、会長と幹事長の1期3年の任期を設けました。

b) 理学部や医学部の部局同窓会で、研究科長が会長となっているが、どのような経緯でそのようになったかは分かりません。一般には、会長は学外者で、事務局長は学内者とするとうまく機能するのではないかという意見が出ました。また、学外者は、学内情報にアクセスできないため、事務局長を務めるのは難しいです。名古屋大学の同窓会は学内に卒業生が多くいる特性があり、ネットワークを生かすことができます。同窓会事務は名古屋大学の教員が担っている場合が多いで



名古屋大学同窓会サミット(豊田講堂シンポジオンホール)



事前アンケート：会長や幹事長（事務局長）等の役員任期

す。寄附をベースとし、蔵書や学生の海外助成等、金銭的な支援も同窓会で行っており、学内者でないと継続性が保てません。会長は、企業等に勤務する学外者のリストを作成し、順番にお願いしている同窓会もあります。

3) 新たな連携・交流の可能性について

a) 全学同窓会では、関東、遠州、岐阜、関西に4つの国内支部があり、各支部で総会や講演会等の活動を行っている一方で、名古屋市に2万6千人、愛知県に5万6千人の卒業生がいるものの、他の国内支部のような同窓会活動がありません。そのため、この地域で他の国内支部のような同窓会活動を行い、同窓会活動全体を活性化したいという全学同窓会の意向が示されました。卒業生が多く就職している企業へのアプローチや各部局同窓会と連携し、この地域の卒業生の強力なネットワークを作る方向で検討しています。

b) 部局同窓会の支部で総会等同窓会を開催されている場合、イベント内容や参加者について周知してほしいです。

4) 名古屋大学基金（特定基金）の現状報告と今後の連携について

木村副総長から、名古屋大学基金（特定基金）の現状報告と今後の連携について、配付資料に基づき説明があり、以下のような意見交換がありました。

a) OB からクラブへの直接の寄附の場合、税法上の控除はありませんが、特定基金の場合、税法上の控除を受けることができます。漕艇部とヨット部は、OB からの寄附と特定基金が競合しないようにしています。そのため、部活の特定基金は学生支援のみに使用しています。

b) 同窓会への寄附は、税法上の控除はありませんが、各部局や大学への支援の直接寄附であれば税法上の控除を受けることができるため、寄附しやすく、個人だけではなく、法人からの寄附も可能です。

c) 国際卓越研究大学の申請では、2025年後までに大学基金ファンドを完成することをあげており、それに向けてファンドレイズを展開していく予定です。目標額については、国際卓越研究大学の申請に合わせたものにする必要があり、調整中です。

d) 15年間で200億円の基金を達成しました。寄附受入実績は、2015年度以前と2016年度以降で大きく異なりますが、国際卓越研究大学に向けて2016年度よりも急伸する必要があります。昨年度は13億円の寄附でしたが、その10倍くらい必要です。目標は高く設定しないと達成は難しいです。同窓生の組織、産学連携等、社会とのつながりが重要であり必要です。

5) 部局同窓会、全学同窓会および大学の今後の連携について

配付資料の部局等同窓会の会長・幹事長等名簿を提示しているため、今後の連携・交流に利用いただきたい旨の説明がありました。

なお、名古屋大学同窓会サミットの前に、豊田講堂の会議室で、工学部系同窓会のみ同窓会サミットも約1時間行われました。

3. 交流会

同窓会サミット後、シンポジオンホールのアトリウムで交流会が開催されました。西村副会長の開会挨拶の後で、個別の懇談が行われました。後半で、各部局・学科・専攻同窓会の代表から、それぞれの同窓会が抱えている種々の課題などについて忌憚のない発言がありました。最後に佐久間副総長の閉会の辞で、大変楽しい有意義な交流会となりました。

4. おわりに

多くの方々に参加いただき、同窓会サミットと交流会では、多くの率直な意見をいただきました。交流会では、同窓会運営の人材不足や会費収入の減少など、最近の同窓会の様子がよく分かりました。来年度以降も名古屋大学同窓会サミットの実施が求められました。

活躍する会員たち NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界におけるご活躍ぶりを紹介しています。第42回は、ホームカミングデイ20周年を記念する拡大版として、1953年に名古屋大学をご卒業、1979年に工学博士の学位を取得され、企業とアカデミアでご活躍の吉田さんに、旧制八校や創立間もない名古屋大学での思い出についてお話しいただきました。

NUAL People in Action introduces the activities of alumni in various sectors. This 42nd installment is an extended edition to commemorate 20 years of the Nagoya University Homecoming Day. Mr Yoshida has thrived in both industry and academia, having graduated from Nagoya University in 1953 and gone on to complete a doctorate in engineering in 1979. He shares his memories of Nagoya University in the days immediately after it was founded, as well as memories of Eighth Higher School, an antecedent of the University.

吉田 恭信さん



■略歴

1929年 愛知県北里村小針（元、尾張、現、小牧市小針）で出生
1947年 第八高等学校理科入学
1950年 名古屋大学工学部電気工学科入学
1953年 工学部電気工学科卒業、日新電機（株）入社、研究課誘電体研究室に配属
1979年 工学博士（名古屋大学）
1979年 第一電力機器本部長兼蓄電器設計部長
1983年 理事・研究部長
1984年 理事・技師長
1986年 日新電機（株）退社、顧問就任
1986年 福山大学工学部情報処理学科教授
2003年 愛知工業大学工学部特任教授（2009年退任）

旧制八高と名古屋大学の思い出

はしがき

本年5月大阪で全学同窓会関西支部第15回総会・懇親会があり、その席で杉山総長に私が旧制八高、旧制名大の最後の卒業生であることをお話ししたら、旧制八高、名大について同窓会誌に寄稿することを要望された。お引き受けして当時の日記から、同窓生に興味を持っていただけそうなことを摘記した。

I. 旧制八高の思い出

(1) 八高理科を受験、合格

1947年3月20～22日に知能検査、地理、歴史、英語、国語、漢文、数学、物理、化学、生物の試験、身体検査があった。4月5日に合格発表があり合格した。4月21日に入学宣誓式があり、宣誓簿に筆で署名した。翌日、入学式が行われ、4月30日から戦災を免れた南寮で講義が始まった。

(2) 戦災校舎の復興

4月6日に住所地区別に校舎復興の寄付金集めを要望された。私は春日井班に編



八高生時代の筆者



戦災を免れた南寮で講義



復興された本館前で祝賀会

入され、一人当たり300円を割当てられた。一方、父兄寄付金は1口2,000円とされた。7月10日に春日井班6名が小牧で打合わせ、募金だけでは不足するので、小牧劇場で映画会をすることとし、8月8、9日に映画と日本舞踊の公演を行った。以上の他にも、私は4月16～26日名古屋空港で延長工事中の滑走路のコンクリートに散水するアルバイトを8日間して、240円を寄付し、更に夏季休暇中の7月21～8月12日名古屋市昭和区役所でアルバイト（日当25円）して、その収入も寄付した。9月17日に新校舎の竣工式が行われ、9月20、21日に天野貞祐氏、横田喜三郎氏の講演があった。10月17日に完工式があり、文部大臣、愛知県知事、名古屋市長、名大総長が挨拶された。

(3) 女子学生

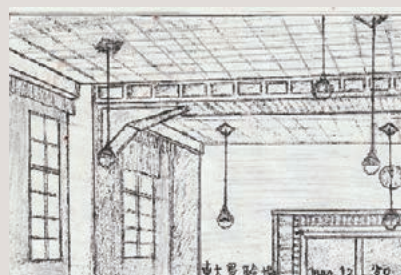
1948年1年後輩に女性2名が入学した。2名とも理科で1年後に新制名大に進学した。五味さんは医学部に



諏訪、五味、筆者、中山、高橋



八高大阪同期会@大阪弥栄会館
前列中央：小畑、その右：筆者



東大試験場をスケッチ

進み、多治見病院耳鼻咽喉科部長などを経て春日井市に耳鼻咽喉科医院を開設され、清木さんは理学部に進み、地球科学専攻の博士課程、日本福祉大非常勤講師などを歴任された。諏訪兼位氏(後、名大理学部長、日本福祉大学長)と結婚、諏訪姓とられた。私の五中時代の親友・高橋氏が医学部で五味さんと、中山氏が理学部で清木さんと同期で、私も同窓会で知り合った。1995年1月17日に阪神・淡路大震災があり、関西同窓会の岡本幹事が関西在住卒業生に安否確認の電話をした。小畑順に電話したら女性が出たので、「御主人に代わって頂きたい」と言ったら、「どんな要件ですか」と尋ねられ、要件を伝えたら「それなら私です」と言われて岡本氏は吃驚した。小畑さんは新潟高校から八高に転校され、名前が順のため、同級生以外は同期に女性がいたことに気付かなかった。このあと関西同窓会に出席されたが、偶然にも私が勤務した日新電機の元社長・小畑英明氏が義弟とお聞きした。

(4) 旧制高校の学制改革

1947年5月に学制改革に応じて八高をどのように変革すべきかをクラス会で討議した。採決結果は「名大と合併」17人、「上級高校とすべし」13人、その他10人だった。1949年5月八高は名大に包含され、49年度は「名古屋大学・第八高等学校」として残ったが、1950年3月に名大に引き継がれ、1年後輩は1949年3月に1年生で八高を修了、新制大学を受験した。

(5) 八高を卒業、八高の終焉

1950年3月31日に八高を卒業、卒業証書には栗田校長と名大・勝沼総長の署名があった。珍しいものなので旧制高校記念館(松本市)に私の卒業証書を寄贈した。我々の卒業によって八高は終焉、3月31日に門柱から門標が取り外され、正門は明治村の正門になった。

II. 旧制名大の思い出

(1) 旧制名大と新制東大を受験、名大に入学

1950年は新制大学への移行期で、旧制大学と新制大学の双方を受験できた。私は家から通学できる旧制名大を第1志望、新制東大を第2志望とした。名大の試験は2月25～27日に高蔵校舎(元、熱田造兵衛)で行われ、数学、英語、ドイツ語、物理、化学の試験、身体検査があった。3月8日に合格発表があって合格、東大受験の必要はなくなったが、受験料を納めていることと、これまで東京へ行ったことが無かったので、東京観光も兼ねて3月9日に上京、東大を受験した。医学部の階段教室で、11～13日に英語、国語、数学、国史、物理の試験があった。出題は旧制高校出身者には比較的優しく、各学科とも定刻前に答案を提出、退出したが、数学の試験のときには階段教室に興味を持って受験票の裏にスケッチした。合格発表は3月30日で、試験場で隣席だったY君に可否連絡をお願いし、31日に速達で知らせていただいた。私は補欠合格で、身体検査に不合格者があれば合格になるとのことだったが、身体検査は放棄し、4月3日に名大へ入学請書を提出した。4月10日に鶴舞の医学部講堂で入学宣誓式が行われ、午後には工学部の入学式が高蔵校舎で行われた。4月11日から高蔵校舎で講義が始まった。

(2) 新制大学の発足と女性の入学

戦後に日本の教育制度は大きく変更され、1949年5月31日に新制大学が発足した。新制名大の入試は6月8、9日に行われ、717名が入学、女性入学者は文学部4名、法学部1名、理学部3名、医学部2名、計10名だった。

(3) 奨学金受領と返済

奨学金の受領希望者が多く、4回にわたって希望者集会が開かれ、奨学金の学生管理について討議し、奨学金交付者選定基準を定めて総務委員会に提出した。12

月に支給者が決定され、翌年1月に第1回の奨学金6,300円を受領した。卒業までに総額60,900円を受領、54年以降、毎年3,045円を20年間返済して73年に完済した。

(4) 家庭教師等のアルバイト

八高生のとき中、小学生兄妹の家庭教師を週2回（謝礼月1,000円）したが、さらに名大入学後に高校生の指導を週2回（月500円）した。以後、卒業まで家庭教師による月1,500円と奨学金（約1,700円／月）を得たほか、夏休みなどの長期休暇には日本碍子、ブラザー、昭区和役所などでアルバイトをして学費とした。

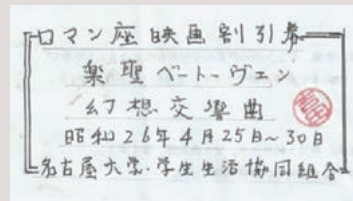
(5) 学生生活協同組合（以下、学生協）の委員活動

①委員就任

1950年5月11日に学生協などの委員の選挙があった。立候補者が無く推薦制になり、私は学生協委員に推薦された。辞退も考えたが、誰かがやらねばと引き受けて、以後、講義の合間に学生会室に詰めて生協の業務（学用品の販売、会計）をこなした。大学の厚生部と学生協委員の連絡会が設けられ、6月6日に第1回全学会合が工学部で開催され、今後の運営方法について協議した。11月29日には工学部の教授らと学生協委員との懇談会が部長室で開かれ、部長から工学部復興計画が説明され、学生からは厚生関係について各種の提案と要望をした。12月16日に第2回懇談会が開かれ、学生協事務員やアルバイト委員の給与、自転車置場、運動施設、学生ホール、学内床屋開設などについて討議した。

②全学統一バッジ制定

6月21日の全学会合で私から全学統一バッジの制定、映画割引券発行について提案した。12月2日の会合で全学統一バッジの募集要項、募集ポスターの作成は私に一任されたので、後日、募集要項を作成、必要部数複写して全学に発送した。バッジは私自身も考案して応募したが、その後、バッジ制定は厚生部から学生部に移管され中止された。然し、53年に開学記念祭実行委員会がバッジを募集して通称シャチバッジが選定された。さらに



ロマン座割引券の例
筆者が印刷、捺印して発行



全国学生協総代会に出席
@京都大学本館

58年に学生部が発案して学生バッジ選定委員会が組織され、学内公募が行われ、教養部の北川氏の作品が選ばれ、学章取扱要項で公式に定められた。

③映画割引券発行

当時、ロマン座（大須）で名画をリバイバル上映していたので、その割引券を学生協で発行したいと考えて、1950年12月9日ロマン座へ行って花井支配人に半額割引券の発行をお願いして了承を得た。12月14日にもロマン座へ行って具体化を打ち合わせ、1月12日に「愛と憎しみの彼方へ」の割引券をガリ版印刷し、吉田の印を捺して発行した。同日、名大新聞記者が工学部に来訪され、割引券発行の経緯、趣旨などを聞かれて説明した。以後、割引券を卒業するまで発行した。

④大学ノートの名工大から譲渡を受け販売

50年に大学ノートの仕入れが困難になった。9月2日に名工大に在庫があることを聞き、即日、名工大厚生課へ行って交渉し、300冊を譲渡していただいた。1月6日にも名工大に500冊の追加譲渡を交渉、了承を得て柳沢君の車で受け取りに行った。

⑤全国学生協連絡会に出席

1950年10月7～9日に京都大学で全国学生協連絡会があり、本部厚生課の藤木係長、飯田委員とともに出席した。7日午後には学生ホールで開催された全国学生協・全国理事会に出席した。活発な討議が行われたが、東大および関東の一部大学に対する他大学の対立が目立った。散会后、百万遍知恩寺へ行って他大学の代表とともに本堂で宿泊した。8日は京大西部講堂で開かれた全国総代会に出席、地方報告、運動方針、綱領などの審議、採決に加わった。午後には一部議案の審議を翌日に残して散会した。9日午前には予算案、事業改革について審議・可決、散会した。帰宅後、報告書を書いて11月3日の全学厚生部・学生協委員連絡会に報告した。



シャチバッジ、NU バッジ、筆者応募の鯨バッジ

(6) 電気自動車運転

工学部に電気自動車があったので、1951年2月12日に学内運動場で運転した。自動車運転の経験はなかったが、電気自動車のため容易に運転できた。この車はトヨタが戦後に試作した電気自動車の第1号車で、豊田章一郎氏（後、トヨタ自動車社長）が名大工学部機械学科卒の縁により寄贈されたものと思われる。

(7) 天竜川水系水力発電所（PS）を見学

1951年7月1～4日に天竜川水系水力PSを見学した。7月1日正午過ぎ天竜峡に着いて三穂PSを見学、その日は阿知原の湯旅館に宿泊した。7月2日は台風のため予定をずらせ7月3日阿知川、米川、泰阜各PSを見学、天竜峡の龍峡亭に宿泊した。7月4日平岡PSを見学、組立中の水車発電機の威容、空き地にあった導水管の大きさに一驚した。次いでダムの建設現場を見学、米国の技術を導入して高度に機械化された建設工法に感嘆した。

(8) 電気機関車実習

1951年7月28日電気機関車に乗務実習した。当時、東海道本線は東京から浜松まで電化されていて浜松・静岡間で乗務した。浜松駅で昼食後に作業服に着替えて急行「雲仙」のEF551電気機関車の運転室に乗り、ノンストップで静岡駅に着いた。帰途は静岡駅から特急「さくら」のEF5830電気機関車の運転室に乗って浜松駅に帰着した。巡行速度100km/hで富士川にさしかかり、堤防の登坂を利用してブレーキをかけずに鉄橋の制限速度80km/hに減速したことに感心した。



電気自動車を運転
桐沢、柳沢、筆者、柴田



建設中の平岡発電所発電機



特急「さくら」EF5830



「雲仙」EF551



宮地研究室のメンバー、1953.3
前列：山田、筆者、宮地先生、志村院生

(9) 宮地研究室で卒業研究

1952年4月から卒業研究が始まった。新制大学4年次生の卒業研究も同時になった。私は宮地助教授からお話を伺った上で、「消弧リアクトル系統の異常電圧の理論的研究」をテーマにした。4月14日から自由共振周波数の異常電圧測定、ベクトル計算等をして、その結果をノート2冊に纏め「無負荷系統の一線断線側接地時の定常ベクトルの位置に関する2,3の計算」と題する卒業論文とした。宮地先生とは卒業後もお世話になることが多かった。私が愛知工大特任教授になったとき宮地先生は同大学の客員教授をされていて、しばしば先生の部屋に呼ばれてお話を聞いた。先生は99歳で逝去され、恩ぶ会では私が卒研生を代表して挨拶した。

(10) 中部電力における遮断器試験

1953年2月2～7日に中部電力水主町変電所で、三菱、日新、井上3社製遮断器の特別高圧ケーブル系統の遮断性能試験が行われ、宮地助教授が全体の指揮をされた。名大からは日新電機(株)に就職が決まっていた私、電力中央研究所に決まっていた山田君も参加した。日新電機(株)からは入社試験のとき面接された中山遮断器工場長が参加されていて、親しくしていただいた。

(11) 名古屋大学を卒業

卒業式は1953年3月25日に米軍に接収されていた名古屋市公会堂で行われた。

名古屋大学全学同窓会講演会・夕食会報告

「愛知県医療療育総合センターの軌跡 －障害児・者の医療福祉のあゆみ－」

Report on the latest NUAL Lecture and evening meal

名古屋大学全学同窓会
事業委員会委員長
根本 二郎



名古屋大学同窓会講演会が令和6年2月2日（金）に、一般社団法人学士会との共催で野依記念学術交流館2階カンファレンスホールにおいて行われました。令和元年度以来の対面形式での開催となり、参加者は60名でした。今回は、愛知県医療療育総合センター総長で本学の名誉教授でもあります石黒直樹先生をお招きし、「愛知県医療療育総合センターの軌跡－障害児・者の医療福祉のあゆみ－」という演題でご講演いただきました。

木村代表幹事の挨拶と講師紹介に引き続き、石黒先生のご講演に移りました。まず冒頭で、春日井のなだらかな丘陵地に建つ愛知県医療療育総合センター（以下、医療療育センター）の、印象的な空撮映像がスクリーンに投影されました。障害者福祉に対する考え方の変遷が、ご自身が総長を務めておられる施設の変遷に重ねて語られる、本日ご講演の骨子を象徴するスライドでした。

本題に入る前に、ヒトが遺伝的多様性に支えられて進化してきたこと、その中で障害も多様性の一つと考え得ること、弱いもの、変わったものを排除する優生学的な考え方は誤りであることが、専門知識なしでも理解できるようわかり易く述べられました。その上で、わが国の障害者福祉の実際とその考え方の歩みが語られます。

戦後わが国の障害者福祉は、日本国憲法の理念の下、障害者の基本的人権を保障するべく公共政策の一部として遂行されます。障害者のための施設整備が進み、医療療育センターの前身となる愛知県コロニーの建設も始まっています。養護学校、入所施設、授産所、病院などを含む総合的な福祉センターでした。石黒先生は、これを施設型福祉と特徴づけられています。施設型福祉は施設での終生保護を目指すものですが、結果として障害者の社会からの隔離につながる懸念がありました。

障害者福祉の考え方は、施設型からノーマライゼーション（平常な生活条件の提供）さらにはソーシャルインクルージョン（社会的包摂）へと転換して行きます。石黒先生は、障害者支援の場が施設から地域、在宅へと移ることを、愛知コロニーの医療療育総合センターへの再編過程と重ねて具体的に説明され、障害者を包摂する共生社会への理解が深まりました。

ご講演は現在の課題にも及び、人口減社会における福祉全般の問題、家族に過度の負担がかかる現状、とりわけヤングケアラーの問題など厳しい現実について言及される一方、石黒先生自身携わっておられるICT技術を活用した新しい取り組みも紹介されました。全体として障害者福祉の問題を包括的に展望する有意義なご講演であったと思います。出席者の過半数の方から回答のあった講演後アンケートでも、障害者福祉に対する理解が深まった等の感想を多くいただいています。

今回は講演会に引き続き夕食会が野依記念学術交流館1階ホールにて開かれ、石黒先生を囲んでさらに活発な意見交換と歓談が行われました。講演会・夕食会とも盛会のうちに終えることができましたことを、皆様に感謝申し上げます。今後よろしくお願いいたします。



石黒直樹名誉教授 講演の様子



講演会・質疑応答の様子

支部・部局便り News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。それぞれが全学同窓会と連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

関東支部 NUAL Kanto Branch

全学同窓会関東支部令和5年度講演・交流会開催

2024年2月18日（日）、関東支部令和5年度講演・交流会を学士会館において開催しました。今回は現地参加のみで、総勢79名の参加となりました。

中村利雄支部長の挨拶に続き、杉山直総長から「名古屋大学のひとつづくり-勇気ある知識人の育成-」と題して、お話をいただきました。



講演者 福島和彦教授

講演会では、名古屋大学大学院生命農学研究科森林・環境資源科学専攻森林化学研究室福島和彦教授に「世界を変えるリグニン～脱炭素社会に向けて～」と題してご講演いただきました。内容は、地球上最大の生物体である「木」に含まれる

リグニンの科学、カーボン・ニュートラル社会に向けての森林資源、リグニン研究を基盤とする新たな木質資源利用等、多岐にわたりました。

交流会に先立って、ミニ演奏会を開催し、名古屋大学交響楽団アルムナイの「山の上カルテット」（Vn. 小西千晶氏（農）、朝日涼氏（文）Vla. 高橋淳氏（法）、Vc. 朝日栄氏（法））によるドボルザーク 弦楽四重奏「アメリカ」の第1楽章が演奏されました。

交流会（懇親会）は、着席スタイルのピュッフェ形式で行い、最初に木村彰吾代表幹事からご挨拶をいただき、石川靖文支部事務局次長の乾杯後それぞれの席にて交流が始まりました。



講演・交流会参加者の記念写真

会も終わりに近づき、小堀康生学士会理事・事務局長からの学士会紹介があり、第八高等学校寮歌「伊吹おろし」、学生歌「若き我等」と続いて歌い、片岡大造支部顧問の挨拶で閉会となりました。

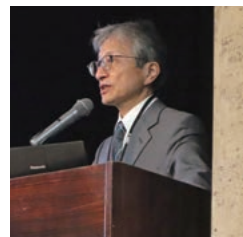
（関東支部事務局長 岸 徹）

関西支部 NUAL Kansai Branch

関西支部第15回総会・懇親会のご報告

本年5月18日（土）、関西支部第15回総会・懇親会を中央電気倶楽部で開催しました。コロナ禍が明けてようやく「第15回」の開催に至りました。

総会でのご講演は、「小惑星探査機はやぶさ2のミッション 成果と展望」と題し、渡邊誠一郎教授（名古屋大学大学院環境学研究科 地球環境科学専攻 地球惑星物理学）にお話しいただきました。



渡邊誠一郎教授 講演の様子

中央電気倶楽部近くにある「渡辺橋」の由来についてのお話からはじまり、地球と宇宙の壮大な物語へとつづき、聴衆一同お話に魅了されました。その後、杉山直名古屋大学総長、木村彰吾名大全学同窓会代表幹事からのお話をうかがいました。懇親会は食堂ホールに場所を移し、関西支部の各部局での懇親を深めることができました。総会、懇親会を通じて約70名の参加が得られました。今回の特徴は、比較的若い方々のご参加も得られたことではないかと思っております。



懇親会の様子

■連絡先：関西支部事務局長 脇田喜智夫
(075-253-0777・御所南法律事務所)

名古屋大学遠州会 NUAL Ensyu Branch

全学同窓会遠州会第13回総会・第25回同窓会懇親会開催

名古屋大学遠州会同窓会の、第13回総会・第25回同窓会懇親会が令和6年6月1日（土）18時から浜松市内のホテルにて5年ぶりに開催されました。来賓として杉山直総長と全学同窓会の伊藤義人副会長、木村彰吾代表幹事をお迎えし、会員59名が出席しました。

最初に出席者全員の集合写真を撮り、総会では野村和彦会長の挨拶の後、平成30年度から令和5年度までの事業報告、会計報告・会計監査報告及び新役員の紹介を行いました。引き続き杉山総長が「名古屋大学の挑戦」と題しまして、最近5年ほどの名古屋大学の変化や課題、国内・国外に向けた様々な挑戦についてスライド資料を投影されながらお話をされました。伊藤副会長からは名古屋大学同窓会の岐阜支部の設立経緯や今年度の総会について、木村代表幹事からは全学同窓会の活動内容についてのお話がありました。

その後、南方顧問の乾杯発声で懇親会をスタートし久しぶりの再会を楽しみました。会の中盤では、用意した名大オリジナル商品や幹事提供の品物を景品としたビンゴゲームを実施し全員大いに盛り上がり、大変和やかな雰囲気の中、黒木副会長の中締めで21時に終了しました。



S52までの卒業生



S53以降の卒業生

■連絡先：名大遠州会同窓会事務局長 鈴木鉄郎
E-mail：enshuszk@yahoo.co.jp

岐阜支部 NUAL GIFU Branch

令和6年度岐阜支部総会・講演会・交流会が開催されました

名古屋大学全学同窓会岐阜支部の令和6年度支部総会・講演会・交流会が、6月30日（日）、JR 岐阜駅に隣接する「じゅうろくプラザ」で開催されました。総会と講演会は5F 大会議室で、交流会は1F レストラン「ラ・ローゼ・プロヴァンス」において、すべて対面で開催されました。

総会・講演会は以下のプログラムで実施され、参加者は、杉山総長、松尾機構長はじめ79名で、その内の57名が交流会にも参加されました。

第一部：総会（5F 大会議室） 14:30～

開会の辞	小笠原文雄（岐阜支部長）
来賓挨拶	杉山直（名古屋大学総長） 松尾清一（東海国立大学機構長）
議 事	活動方針 会計報告 監査報告 幹事会役員

記念撮影



総会参加者の集合写真

第二部：講演会〈岐阜の自然を語る〉（5F 大会議室）

土田浩治（岐阜大学教授）
「侵入生物の辿った道を探る」
川上紳一（岐阜聖徳学園大学教授）
「惑星探査と岐阜の自然」

第三部：交流会（1F ラ・ローゼ・プロヴァンス）

17:00～19:00

なお、交流会は、着席サーブで行なわれました。交流会の最後には、じゃんけん大会と支部長による健康体操も行われ大いに盛り上がりました。

なお、来年度の総会・講演会・交流会は、令和7年5月24日（土）にじゅうろくプラザで開催される予定です。

（岐阜支部監事／全学同窓会副会長 伊藤義人）



着席の交流会風景

大学支援事業目録贈呈

令和6年4月24日（水）、令和6年度第1回幹事会において、全学同窓会大学支援事業（令和5年度第2回）採択に目録が贈呈されました。

今回は、12件の応募から、表の5件が採択されました。

事業の内容は、実施後に本誌で紹介され、全学同窓会 HP でも公開されます。

また、これまでに採択した事業を全学同窓会 HP で公開しています。

所属・職名等	申請者	事業名
理学研究科 理学専攻 博士前期課程2年	谷田 幸貴	“市民と研究者・科学をつなげる公開収録ポッドキャスト企画”
工学部 機械・航空宇宙工学科2年 名古屋大学宇宙開発チーム NAFT	前田 賢三	動翼を用いたハイブリッドロケットのロールおよびピッチ制御の実証実験 自作エンジンでの燃焼試験の実施と推力履歴の測定
文学部・人文学科・英語学専攻3年	後藤 駿介	混声合唱団名古屋大学コール・グランツェ「合唱物語」の委嘱初演活動
国際開発研究科 国際開発協力専攻 D1学生	Gerald Chizonda (ジェラルド・チゾンダ)	ASANU による異文化交流イベント アフリカに関する ASANU 主催の学術会議
教育推進部国際連携課長	井手 暢子	バンコク事務所10周年記念式典・講演会



授与式の様子



集合写真

同窓会支援事業 NUAL Support Project

全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生活動、就職支援事業、本部・部局による行事・寄附講義等）を支援するため、公募型の大学支援事業を実施しています。

NUAL has an open invitation type support project for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association.

「青年期の心を育てるセミナー」

申請代表者：船津静代（学生支援センター・准教授）

今回、本センターの初の試みとして、豊かな学生生活支援に重要な役割をはたす保護者に対し、本センターの取り組みを紹介し、青年期の心の在り方の理解を促す講演会を開催し保護者や関心をもつ一般市民30名近くが参加しました。

冒頭、松本真理子センター長が「学生の豊かで健康な学生生活には保護者の支援がかかせない。これまでの学生相談においても学生本人はもとより、学生の家族からつながって、本人の支援が充実したケースは増えてきている。今回のような機会をきっかけに大学の学生支援の取り組みをご理解いただき、身近に感じていただけるよう、学生の支援にご協力を

お願いしたい。」と挨拶し開会しました。続いてメンタルヘルス部門の精神科医である古橋忠晃准教授が「ひきこもり」について講演を行いました。古橋准教授はフランスにおいて精力的にひきこもり支援を展開しており、「ひきこもりはカラオケ同様世界的言語になりつつあり、フランスにもひきこもりと言われる若者は増えている。家庭訪問を試みているのだが、これまで部屋をでなかった若者が「日本からひきこもりの専門家がわざわざ自分に会いに来た」と言って部屋を出てきたり、次の訪問を楽しみにするようになっていく。今日は保護者やご家族が関心を持ってきていただいているが、こうして周囲が関心をもつことはとても大切で、名大でも親御さんが相談にいらしていると、そのうち学生さんとなつたり、面談に来られるようになるケースがみられる」と保護者や家族の存在の大切さを語りました。そ

の後、センターのスタッフ（精神科医・臨床心理士・キャリア
 カウンセラー）が、参加した家族の個別相談にあたりました。
 参加されたご家族からは「大学がしっかり学生を支援してくれ
 ていることがよくわかった」「子供が大学に戻るには時間がか
 かることもあるが、それでも見守ることで大学にもどるチャンスも
 あるとわかって、安心した」などの声がアンケートで寄せられ
 ました。これまでの地域に開かれた大学の役割とともに、若者
 を支える社会の拡がりを目指すにあたり、この講演は大きな一
 歩になりました。今回のホームカミング日のメインテーマである
 「社会の中の大学」という観点からも、中部地域の基幹的総
 合大学として、本学の学生支援の取り組みや青年期の課題
 を広く社会に情報発信し、青年を取り巻く地域や企業、教育
 等の諸領域と情報交換し、学生を支える社会づくりを目指す
 方向性は全学同窓会の理念とおおいに合致したと考えます。



開催セミナーで「青年の心の闇と「ひきこもり」について聴き入る参加者

- ① ASANU による異文化交流イベント（アフリカ・デー）
- ② ASANU 主催によるアフリカ地域に関する学術カンファレンス

申請代表者：ジャフワ アエグベ ジャン ノエル
 （国際開発研究科 国際開発協力専攻 博士前期課程1年）
 報告者：ジェラルド・チゾンダ
 （国際開発研究科 国際開発協力専攻 博士後期課程1年）

2019年度の支援を頂いた直後に新型コロナウイルス感染症が流行
 し、事業の実施ができずにいましたが、2023年5月27日、名
 古屋大学アジア法交流館にて、アフリカデー（5月25日）を記
 念したアフリカの豊かな文化遺産を紹介するイベントを開催す
 ることができました。名古屋大学アフリカ学生会（ASANU）
 が、名古屋大学全学同窓会から貴重な資金援助を受けて開
 催した本イベントは、魅惑的なパフォーマンス、鮮やかな衣装、
 多彩な才能で、アフリカ文化の美しさと多様性を祝う体験とし
 て、学内97名、学外から91名の参加者をもてなしました。

イベントに特別参加した、モニカズ・バウンス・バンドとジャ
 ンベの演奏グループが、エネルギッシュなパフォーマンスで聴
 衆を魅了し、参加者にもジャンベの演奏を体験して頂きました。
 アフリカの学生達が、伝統的な衣装による華やかなファッショ

ンショーで、マラウイのベン
 ジャミンさんが魅惑的な伝
 統舞踊で、モザンビークの
 ウィニー・パペロさんが心に
 響く詩で、それぞれ観客を
 魅了しました。

著名な南アフリカ人ジャ
 ズ・シンガー、プリスカ・モロ
 ツイさんが司会を務め、イベ
 ントに優雅さとエンターテイ
 メントを添えてくださいまし
 た。名古屋大学副総長で



Global Perspectives Symposium
 基調講演の様子

国際本部長の水谷法美氏、在日マラウイ大使館のグレイシャ
 ス・エンウツ・ソコー等書記官（通商担当）、アレックス・ク
 マロー等書記官（総務担当）、グローバル・エンゲージメントセ
 ンターの田中京子教授、高木ひとみ准教授も出席されました。

2つ目の事業として、アフリカと日本双方の研究者や学生達
 の知識交換、文化理解、実践的な洞察を得る機会となるよう、
 2024年2月24日に、本学および名古屋商科大学の留学生が
 一堂に会するGlobal Perspectives Symposiumを本学大学院
 国際開発研究科8階オーデトリウムで開催し、34名が参加
 しました（内12名はオンライン参加）。

基調講演として、本学大学院国際開発研究科のクリスチャ
 ン・オチア准教授には日本文化と留学生のキャリアの位置づけ
 についてお話し頂き、また、Macadamia Group Ltd. のエリッ
 ク・クワーテン氏には、日本でのビジネス構築のための包括的
 なガイドを提供して頂きました。その他、本学大学院国際開
 発研究科博士課程のAbraham SalazarさんとShid Zhang
 さんにもスピーカーとしてご協力頂き、留学生の就職活動につ
 いて、ご自身の経験に基づいたアドバイスを頂きました。これら
 の講演後、参加者が感想や経験について話す機会を持ちまし
 た。

名古屋大学グローバルスチューデント・ アンバサダープログラム

申請代表者：高木ひとみ
 （国際本部グローバル・エンゲージメントセンター・特任准教授）

国際本部グローバル・エンゲージメントセンター支援チームで
 は、全学同窓会大学支援事業の助成を受け、新型コロナウ
 イルス感染症の影響を受けたキャンパスにおいて、外国人留
 学生と一般学生の国際交流の機会を促すため、2022年度秋



多文化交流イベント「Fun Night」(ポスター)

学期に「名古屋大学グローバルスチューデント・アンバサダープログラム」を実施しました。本プログラムでは、名古屋大学の留学生と一般学生が学生アンバサダーとなり、コロナ禍において交流しやすいイベント機会を作るために、多文化チームを形成し、学生が主体となり交流プログラムを企画、運営するプログラムです。学生アンバサダーとなった12名の名古屋大学生たちは、プログラム企画運営に必要な全体研修(名古屋大学における国際化、多様性への配慮、将来に向けてのビジョン作り等)を受講し、多様なメンバー(留学生、大学院生、学部生等)で構成されたチームを組み、言語使用の面では英語と日本語を混ぜて工夫しながら、企画を進めていきました。2つのチームが、多文化交流イベント「Multicultural Fun Night」、テーマ別おしゃべり会「一緒に話しましょう!」を2023年2月に開催し、多くの名古屋大学留学生、一般学生が参加し有意義な時間を過ごしました。

本プログラムを通じて、学生アンバサダーとして参加した学生が、他の学生とともに、名古屋大学の国際化について検討し、学生の観点から必要とされる交流・共修イベントを企画し、リーダーシップを発揮し、名古屋大学に貢献する機会に関われたことは、コロナ禍における学生支援の観点から、成果を出せたのではないかと考えられます。また、グローバルスチューデント・アンバサダーが提供した交流・共修イベントにより、多くの学生が他学生と交流し、多文化理解を深め、コロナ禍における孤独感や日常のストレスなどを低減し、学生生活を送れることにつながられたことは、重要な教育成果として捉えられます。今後も国際本部グローバル・エンゲージメントセンターでは、国際化の進むキャンパスにおいて、多様な学生たちの交

流やピア・ラーニングの機会が増えるようプログラム開発に取り組んでいく予定です。ご支援本当にありがとうございました。

International Students Startup Support Project (留学生の起業支援プロジェクト)

申請代表者: レイト・エマニュエル
(工学研究科国際交流室・講師)

キャリアパスの選択肢として、従来の就職に加えて、研究成果やアイデアに基づいた起業を選択する留学生の事例が増加しています。しかし、留学生によるビジネスベンチャーやスタートアップの設立はまだ少ない現状です。このプロジェクトの目的は、留学生が日本でビジネスを始める際に直面する課題(情報不足、ビザの問題、チームビルディングなど)に対する解決策を探ることです。

このプロジェクトの重要な成果の1つは、名古屋大学の1年生と2年生の留学生を対象とした「キャリア形成論」の講義に、「Developing an Entrepreneurial Mindset」というモジュールを導入したことです。モジュールの導入により、学部入学後すぐに、アントレプレナーシップをキャリアパスの一部として考えるための、構造化された情報を留学生に提供することができます。2023年の秋学期に開講された講義は32名の留学生が受講しました。講義に加えて、本事業では、イノベーションとアントレプレナーシップをテーマにした複数のセミナーとワークショップ(名古屋大学の谷口教授による「Entrepreneurial Mindset and Japanese Budo - JUDO」、シンガポール国立大学のAng教授による「Towards Creativity and Innovation」、名古屋大学卒業生・起業家 Naren Bao 博士による「The International Student Startup Journey: Challenges」)、そして、ビジネスアイデアの発想とピッチングに関する2つのワークショップも企画・実施しました(一部の活動様子は写真参照)。さらに、アントレプレナーシップに



アイデアピッチイベント 防災関連ビジネスアイデアピッチワークショップ (留学生1・2年生25名発表)

関する情報をより多くの留学生に情報を届けるため、留学生起業家に焦点を当てた、留学生によるインタビューの制作と配信（ポッドキャスト）の作成支援をしました。一部のポッドキャストはこのリンクで見ることができます。（<https://www.passionprojectjp.com/>）。

留学生に適切かつタイムリーな情報を提供するために、日本国内（例：Tokyo Innovation Base, CIC 東京、Startup Hub Tokyo 丸の内、Shinagawa Industrial Platform/SHIP、名古屋「なごのキャンパス」、Nagoya Innovators Garage 等）のスタートアップ支援施設が行っている外国人向け起業支援の取組について調査しました。また、いくつかのスタートアップ関連国内イベント、例えば：「Go Global ENGLISH Pitch Competition」（2023年2月23日 - 日本橋ライフサイエンスハブJ-Link）、「Kansai Startup Pitch Night」（2023年3月23日 - CIC Tokyo Toranomon）、「Takeoff Tokyo」（2024年4月10～11日：Tokyo Big Sight）、SusHi Tech Tokyo 2024（2024年5月15～16日：Tokyo Big Sight）、等に参加し、情報収集をしました。

また、プロジェクト期間中、海外の他大学のイノベーションとアントレプレナーシッププログラムとのつながりも築くことができました。これには、ヨーク大学（カナダ）の YSpace、ワシントン大学（米国）の GIX プログラム、ストラスブール大学（フランス）の PEPITE-ETENA、ステレンボッシュ大学（南アフリカ）の LaunchLab、シンガポール国立大学（シンガポール）の NUS Enterprise、シンガポール工科大学（シンガポール）の Venture, Innovation and Entrepreneurship などが含まれます。これらのプログラムからベストプラクティスを学んで、その知識を活用するだけでなく、今後はこれらの海外大学の組織と連携して、起業家教育に焦点を当てた実際の学生交流を実現したいと考えています。

以上、本事業にご支援していただきました全学同窓会に感謝の意を表します。

名古屋大学から発信する新しい農学 ～現在・過去・未来～セコイアと共に～

申請代表者：土川 覚
(農学部・生命農学研究科 学部長・研究科長)

農学部および大学院生命農学研究科(旧農学研究科)は、令和3年度および令和5年度にそれぞれ創立70周年を迎えます。これを記念して、令和4年度の名古屋大学ホームカミングデイに併せて「名古屋大学農学部創立70周年記念事業」を



コメンテーターも参加するパネルディスカッションの様子

開催しました。ハイブリッド催事でしたが、本学名誉教授、学部・研究科同窓生、新旧教職員、および学生等約90名が農学部を集い、また、オンラインでは約45名が参加し、盛況のうちは無事終了いたしました。一連の行事開催につきましては、全学同窓会よりご支援賜りました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

当日の概要ですが、第一部では、各界で活躍されている4名の卒業生の方々にご講演いただきました。林野庁森林整備部長の小坂善太郎様には「日本の森林 過去・今・未来～伐って使って植える循環によるグリーン成長を目指して～」、農林水産省大臣官房技術総括審議官 兼 農林水産技術会議事務局長の川合豊彦様には、「みどりの食料システム戦略」、豊橋飼料株式会社テクニカルセンター執行役員の中嶋真一様には「家畜用飼料の現状と将来について」、そして株式会社ブルボン代表取締役社長の吉田 康様には、「食品企業の経営」と題したお話をしていただきました。それぞれのお立場から「新しい農学」への期待と、歴史と伝統をいかに次世代へ繋げるかについてご講演いただき、続く第二部では、セコイア会（名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会）小川雄二会長、石川靖文関東支部長、加藤壽郎関西支部長、そして東村博子名古屋大学副総長がコメンテーターとして参加するパネルディスカッションを企画しました。農学部・生命農学研究科（旧農学研究科）が歩んできた70年間に想いを馳せるとともに、農学を基盤とする研究教育活動の今後の在り方、社会へ向けての情報発信・情報共有について活発な討議が展開され、大変充実した一日となりました。

農学部・生命農学研究科は、今後も誠実かつ着実に教育研究活動に邁進する所存でございますので、引き続き、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

名古屋大学模擬国連 NUMUN2023の開催

申請代表者：頼 宛青 LAI Wan Ching (ライ ワン チン)
(経済学部4年生(グローバル30国際プログラム群))

模擬国連は、参加者が一国の大使や議員団の役割を担い、特定の議題について実際の国連における会議と同じように担当国の政策や歴史、外交関係などに照らし合わせて議論を進める体験学習の場です。そして参加者らの討議技法のスキルアップとともに、国際問題への理解を深め、国際交流を発展させる機会となることが期待されています。名古屋大学では留学生が中心となり、2017年に学内参加者に限定して第1回目の模擬国連が1日の会期で小規模に開催されました。第2回目の2022年は参加者を学外にも広げて2日間開催されました。そして、第3回目となる2023年は、模擬国連学生実行委員会が結成され、名古屋大学グローバル・エンゲージメントセンターとの共催、国際連合地域開発センターによる後援を得て、東山キャンパスにおいて NUMUN2023が開催されました。本企画に対して、全学同窓会大学支援事業による援助を受けることができ、おかげさまで参加者から徴収する参加費を低く抑えることができました。ここに謝意を表します。

東海地方をはじめ、北陸、九州、中国、関東など全国各地から高校生・大学生・大学院生が参加し、実行委員会メンバーを含めて100名近くが集まりました。参加した国際学生の出身国や地域は日本を含め15にも上りました。台湾から高校生3名も参加しました。今回の模擬国連は、初級者、中級者、上級者に分けて、3つの委員会（「ゲノム編集と生命倫理」、

「環境と食糧問題」、「気候変動」）を設置し、それぞれ活発に議論がなされました。開会式ではアメリカ合衆国から大学准教授や国際通貨基金職員からもビデオメッセージを頂きました。名古屋大学模擬国連はマスコミにも取り上げられ、開催前日に中日新聞朝刊の名古屋市民版(<https://edu.chunichi.co.jp/news/detail/11745>)、開催初日にNHK夕方東海地域ニュースで紹介されました。さらに開催終了後に模擬国連の様子が名古屋大学の英語版広報ウェブサイトでも紹介されました (https://en.nagoya-u.ac.jp/voice/model_un_23.html)。名古屋インターナショナルスクールの生徒は名古屋大学模擬国連参加を振り返って英語で語り合い、その様子をYouTubeで動画発信しています。学生企画運営の模擬国連は至らない点も多くありましたが、このようにSNSを通じて世界に発信され、名古屋大学の国際性評価向上にも貢献し、名古屋大学へ入学を希望する留学生の増加にもつながると期待しています。最後にアドバイスとご支援を頂いた国際本部グローバル・エンゲージメントセンターおよびグローバル・マルチキャンパス推進機構の先生方に心から感謝申し上げます。



委員会風景（ゲノム編集と生命倫理）

同窓会・大学行事カレンダー

全学同窓会、部局同窓会、及び、大学に関する行事が下記のとおり開催されます。
詳細は、全学同窓会ホームページ <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/> をご覧下さい。

○関東支部

1) 関東支部令和6年度講演・交流会

開催日：2025年2月16日（日） 14：00～18：00（予定）
場 所：KKR ホテル東京 瑞宝の間（東京都千代田区大手町）
講演会：名古屋大学名誉教授 浜田道代氏
「コーポレート・ガバナンス改革の行方」（仮題）
1時間の講演会の後、交流会を行います。
*詳細情報につきましては、今後、HP、メール等でお知らせいたします。

連絡先：関東支部事務局長 岸 徹
E-mail：nual.kanto@gmail.com

2) 鏡ヶ池会東京支部総会

工学部土木系同窓会である鏡ヶ池会の東京支部（主に関東地方在住者が対象）の総会
開催予定日：2024年11月15日（金） 18：30～20：30
場 所：主婦会館プラザエフ（JR四ッ谷駅 麴町口前）
連絡先：鏡ヶ池会東京支部 担当：大西英之（鹿島建設）
Email：onishihi@kajima.com

○名大遠州会

名大遠州会第26回同窓会

日 時：2025年5月31日（土） 18：00～
場 所：ホテルクラウンパレス浜松
連絡先：名大遠州会同窓会事務局長 鈴木鉄郎
E-mail：enshuszk@yahoo.co.jp

○岐阜支部

岐阜支部2025年度総会・講演会・交流会

*以下の設定で企画中です。詳細は追ってHP等でお知らせします。ご予約下さいませよう。

日 時：2025年5月24日（土） 14：00～（予定）
場 所：じゅうろくプラザ大会議室（JR岐阜駅隣）
（岐阜支部事務局：2019nugaa@gmail.com）

○全学同窓会・学士会主催 講演会・夕食会

講演会 日時 2025年1月10日(金) 16:00~17:30 (開場15:30~)

場所 名古屋大学野依記念学術交流館2階 カンファレンスホール

講師 佐々木 一郎 氏 プラザー工業株式会社 取締役副会長

演題 「名古屋大学での学びが、こんなに役立った」

夕食会 日時 2025年1月10日(金) 17:40~18:40

場所 名古屋大学野依記念学術交流館1階



詳細はこちら



佐々木一郎氏

※詳細、お申し込みは全学同窓会 HP (<https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>) にてご確認ください。

事務局からのお知らせ From the NUAL Office

●支援会費のお願い Call for contributions

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられています。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

○支援会費 Supporting Fee

支援会員 Supporting member : 一口 5,000円

支援法人会員 Supporting institution : 一口 50,000円

○お支払い方法

郵便振替 Post Office Account 口座番号 : 00860-8-113043

自動引落利用ご希望の方は、預金口座振替依頼書をお送りしますので、同窓会事務局にご連絡ください。

●住所等の登録・変更について NUAL member registration

全学同窓会では、名古屋大学と連携して、名古屋大学卒業生等電子名簿を整備し、大学及び同窓会からの情報発信を行っています。住所等の変更があった場合は、名古屋大学卒業生等電子名簿システム (<https://web-honbu04.jimu.nagoya-u.ac.jp/nual/>) の情報を更新いただきますようお願いいたします。

お問合せ先 : 名古屋大学 Development Office (DO 室) 卒業生等電子名簿担当

052-747-6559 (9:00~16:00) sotugyoumeibo@mail.nagoya-u.ac.jp

「名古屋大学カード」の入会のご案内

～名古屋大学カードで繋がる大学支援～

全学同窓会は、同窓生と母校との連携強化・大学支援の充実を目指し、「名古屋大学カード」を発行しており、利用金額の一部が同窓会に還元されます。

◆名古屋大学カード～ゴールド～

入会者は**20,000名**を超えています。



年会費永年無料!

家族会員様も1名様に限り無料。

ポイントがたまる!

家族会員様のご利用分もまとめて本会員様へ付与。

●国内・海外旅行傷害保険付帯 最高3,000万円

●ショッピング保険

年間補償限度額 200万円

●空港ラウンジサービス

入会方法について

① WEBからのご入会をご希望の方

名古屋大学全学同窓会 HP からお申込みください
⇒ <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

② 入会申込書からのご入会をご希望の方

名古屋大学全学同窓会へ入会申込書をご請求ください
⇒ TEL/FAX : 052-783-1920 (受付 : 9:00~17:00)

●カード優待サービス企業の紹介 <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/information/OBservice.html>

●カード優待サービスの企業を募集しています。 詳細は全学同窓会事務局へお問い合わせください。

編集後記

拡大版の「活躍する会員たち」では、吉田様に多くのお写真と共に貴重なお話をいただきました。当時の様子を懐かしく思われる方も、新しく知る方も楽しんでいただけたと思います。同窓生の皆様には本同窓会へのますますのご支援を頂けますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

(全学同窓会広報委員会)

NUAL Newsletter No.42 令和6(2024)年10月発行

Nagoya University Alumni Association

NUAL 名古屋大学全学同窓会

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail nual-jimu@mail.nagoya-u.ac.jp

ホームページ <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集 : 名古屋大学全学同窓会広報委員会

